

インフォメーション

問い合わせ：仙台市市民活動サポートセンター

TEL 022-212-3010 / FAX 022-268-4042 Mail sendai@sapo-sen.jp

仙台市市民活動サポートセンター20周年記念イベント

超!マチノワ

想像を超える!
ワクを超える!
これまでを超える!

2019年6月30日(日)9:30～17:30 仙台市市民活動サポートセンター全館

シンポジウム1 「脱スパイクタイヤ運動」から考える市民協働

時間:10:00～12:00 会場:6階 セミナーホール

定員60人／要申込み／参加無料／パソコン要約筆記あり

ゲスト:西川善久さん(当時河北新報社記者、元株式会社ベガルタ仙台 代表取締役社長、現株式会社ベガルタ仙台 経営アドバイザー)、菅野拓さん(大阪市立大学都市研究プラザ特別研究員、人と防災未来センターリサーチフェロー)、その他、当時運動に関わっていた方々

「仙台砂漠」という言葉を知っていますか?いまから40年以上前、仙台市内は冬用タイヤ「スパイクタイヤ」が路面を削った粉じんで、100m先すら見えないとと言われるぐらい、もうとうとしていました。もちろん、多くの人がマスクをつけるなど、健康にも悪い。その状況をなんとかしようと、立ち上がったのは仙台市民たち。結果、全国でも有名な「脱スパイクタイヤ運動」が繰り広げられ、国の法律すら変えました。この運動が無ければ、仙台の冬の風物詩「光のページェント」も楽しめなかったでしょう。運動に関わった方々と研究者をお招きし、どうやってはじまったのか、どう広げたのかについてうかがい、市民協働の在り方を共に考えます。

シンポジウム2 NPOと政策形成のこれから ー震災後のNPOに学ぶー

時間:13:30～15:30 会場:6階 セミナーホール

定員60人／要申込み／参加無料／パソコン要約筆記あり

話題提供者:水戸部秀利さん(特定非営利活動法人きらきら発電・市民共同発電所 理事長)
村島弘子さん(特定非営利活動法人移動支援Rera 代表理事) 他、調整中

コメンテーター:大滝精一さん(特定非営利活動法人せんだい・みやぎNPOセンター理事、大学院大学至善館 副学長)

コーディネーター:石井山竜平さん(東北大学大学院 教育学研究科准教授)

日常にある暮らしの中の困りごとやつぶやきに耳を傾け、自治体や政府へ代替え案を示して政策提言を行う、いわゆるアドボカシー活動はNPOの特徴的な活動です。特に東日本大震災を機に、市民が安心して暮らせる環境をつくろうと自ら動いた現場がありました。本シンポジウムでは、エネルギー問題、避難生活に伴う高齢者の困りごと、看取りにまつわる問題から、現状を知り、学び、暮らしの質がより向上するために私たちには何ができるのか、共に考えます。

他、市民活動やサポセンについて知ることができるミニ講座や、歌やダンスを楽しみながらの交流会も開催します。右のQRコードから、申込みフォームにアクセスして下さい。

※申込み開始日:2019年6月6日(木)9:00スタート



つながる つなげる サポセン

仙台市市民活動サポートセンターとは

様々な分野の市民活動、ボランティア活動の支援施設です。「自分たちのまちをもっと良くしたい」。そんな市民の自発的な活動を応援します。

ご相談ください

ボランティア活動をしたい／団体を立ち上げたい／組織運営の悩みを解決したい／他の団体や他のセクターと連携したい／自分のスキルを地域や社会に役立てたい...

今月の休館日 6月12日(水)、26日(水)

開館時間 月曜日～土曜日 9:00-22:00

日曜日・祝日 9:00-18:00

休館日 毎月第2・第4水曜日(祝日の場合は翌日木曜日)年末年始

〒980-0811 仙台市青葉区一番町四丁目1-3

TEL 022-212-3010 FAX 022-268-4042

地下鉄南北線「広瀬通駅」西5番出口すぐ／地下鉄東西線「青葉通一番町駅」北1番出口から徒歩6分

[HP]https://www.sapo-sen.jp [Blog]http://blog.canpan.info/fukkou/ [Twitter]@sensapo

仙台市市民活動サポートセンターは、特定非営利活動法人せんだい・みやぎNPOセンターが仙台市の指定管理者として、管理運営を行っています。[指定管理期間2015年4月1日～2020年3月31日]

仙台市市民活動サポートセンターは、おかげさまで2019年6月に開館20周年を迎えます。市民活動の歴史、現在の取り組まれている市民活動や企業の社会貢献活動の紹介、市民による企画を詰め込んだ、「仙台市市民活動サポートセンター開館20周年記念イベント「超!マチノワ」を開催します。仙台のこれまでとこれからのまちづくりを考え、想像やワクを既存のつながりや、セクターのワクを超えて、想像を超える「マチノワ」へと一歩ふみだすこの機会に、ぜひご参加ください。



市民参加企画

● 市民スポーツボランティア SV2004

「スポーツボランティア説明会&マッチング」

時間:9:30～12:00 会場:地下1階 市民活動シアター

定員100人／要申込み／参加無料

共催:スポーツコミッションせんだい

問い合わせ先・申込み:izumita@dm.mbn.or.jp

● WorkKafe(ワークフェ)

「働く人の座談会～職場の垣根をこえて悩みをシェアしよう～」

時間:13:00～15:00 会場:4階 研修室3(床座)

定員24人／申込み不要／参加無料

問い合わせ先:080-1841-0084

workafe219@yahoo.co.jp(中林昭弘)

● NPO法人World Open Heart

「息子が人を殺しましたー加害者家族の真実ー」

時間:13:00～15:00

会場:4階 研修室5

定員50人／申込み不要／参加無料

問い合わせ先:090-5831-0810(阿部恭子)

● わしん倶楽部

「参加型災害対応カードゲーム クロスロード」

時間:13:30～15:00 会場:1階 マチノワひろば

定員20人／要申込み／参加無料

申込み:sendai.washinculb@gmail.com

問い合わせ先:090-7663-6895(田中勢子)

マチノワプレスセンター

市民ライターが市民企画を応援しようと団体を直撃取材しました。

サポセンのブログで団体の活動や企画の見どころをご紹介します。

サポログ@仙台



市民ライターが、仙台の市民活動団体やワクワクビトを取材しています！

▶ 市民ライター

http://blog.canpan.info/fukkou/category_23/1



▶「ぱれっと」バックナンバーはホームページからダウンロードできます。

▶ぱれっとに関するご意見をお寄せください。

[ぱれっと読者アンケート]サポセンホームページからアクセス
いただくか、携帯電話等で2次元バーコードを読み取ってご利用ください。



発行

発行日

編集

デザイン

編集人

発行部数

配布場所

仙台市市民活動サポートセンター

2019年6月1日

特定非営利活動法人せんだいみやぎNPOセンター

PEACE Inc.

太田貴 菅野祥子 松村翔子 鎌田みずほ 水原のぞみ

3000部

市内公共施設や行政窓口、市内一部店舗、市内外の支援施設



仙台市市民活動サポートセンター通信 ぱれっと 2019 No.238

「ぱれっと」には、仙台市市民活動サポートセンター(サポセン)にいろいろな人が集まり、それぞれの色(個性)が発揮され、新しい出会いや活動が生まれていく。そんな願いがこめられています。



仙台をワクワクさせる人物をご紹介します

今月のワクワクビト

コニカミノルタジャパン株式会社東北支店 複合機清掃運用チーム 指導員

ふるかわ しゅうへい

古川 修平さん(35)

同じ目線で

障がい者の「働く」を支える

古川さんは、障がい者に複合機清掃の技術を指導し、一般就労へのサポートをしています。自身も脳性麻痺による発作、右半身の機能障害があります。

「一般企業で働きたい」と思いを抱きながら、福祉的就労に従事していた古川さん。施設の勤めで、コニカミノルタジャパン株式会社が取り組む「障害者就労支援事業」に参加。複合機の清掃員を育成・認定し、障がい者の働く機会を広げる取り組みです。3ヶ月間、社員から清掃技術やビジネスマナーを学び、同社取引先での実習に汗しました。はじめは時間内で清掃することに精一杯でしたが、経験を重ねるうちに速く正確にできるようになり、認定試験に見事合格。清掃員の指導役として同社に就職しました。

指導する立場になり、言葉選びや接し方など新たな壁にぶつかることもありましたが。支えてくれたのは、上司や同じように障がいがある同僚。共に解決策を考え、体調も気遣ってくれた仲間の姿が道しるべになりました。「私も、同じ目線で相手の状態や気持ちを理解できるよう心がけていきたい」と、今日も指導に励みます。

取材・文 平塚千絵

コニカミノルタジャパン株式会社東北支店

〒980-0811 仙台市青葉区一番町 1-2-25 仙台NSビル2F

2012年から福祉施設とともに障がい者就労支援事業「複合機清掃サービス」に取り組んでいます。現在、指導員として技術指導にあたる障がい者は6人。「認定清掃員」は40名以上に達し、同社の取引先を定期的に訪問清掃しています。これまでに、スキルを学んだことで一般就労への自信がついたり、訪問先で24人が就職したりと成果を見せており、障がい者の一般就労を広げる事例として注目されています。

特集

未来につづく荒町商店街にするために
あらまち100年プロジェクト
「荒町百年物語」

レポ
ー
ト
！

一人にならないで、
助けを求めて

地域の課題を解決するために、様々な立場の人たちがコラボレーションする取り組みをご紹介します

未来につづく荒町商店街にするために あらまち100年プロジェクト「荒町百年物語」

仙台市若林区荒町には、400年続く歴史ある商店街があります。伊達藩より麴の専売権を与えられたことから、味噌醤油、酒など、麴を生業とした歴史あるお店が今も残ります。しかし、長い年月の間に商いを続ける人は減り、シャッターを閉めたままの店舗が増えました。商店街と、隣接する大学がそれぞれの期待と思惑を胸に始めた連携の取り組みを紹介します。



これまでの100年、これからの100年

2019年3月2日、東北学院大学(以下、学院大)ホーイ記念館にて、ドキュメンタリー映画「荒町百年物語」が上映されました。映画を製作したのは、荒町商店街振興組合(以下、商店街)と学院大。上映会は、2018年7月から、商店街と学院大が協働で取り組んでいる「あらまち100年プロジェクト」の一環として開催されました。今後100年つづく荒町にすることを目的とした取り組みで、製作を通じて商店街と学院大がお互いの親交を深めてきました。

映画では、商店街22店舗を学院大生が取材し、荒町のこれまでの歴史や未来の荒町についていきたいものなど、店主たちの荒町への思いを聞いています。上映会には、一般の人など約200人が来場。主催者側予想の100人を遥かに越える参加者に恵まれました。

話し合いを重ね、お互いを知る

連携のはじまりは、「学生に商店街を利用してもらい、地域を活性化させたい」という商店街店主たちの思いからでした。2023年に予定されている、荒町に隣接する旧市立病院跡地への、学院大五橋キャンパスの建設に先駆けて、「今から学院大と連携を深めたいが、

それは可能だろうか」と、商店街副理事長伊藤元治さんが、仙台市経済局地域産業支援課(以下、地産課)に相談。地産課が学院大との間を取り持ちました。商店街と各種団体が連携することで利用できる「仙台市商店街地域ビジネス連携事業」の活用を、伊藤さんが学院大に持ちかけたところ、東北学院大学学長室長の阿部重樹さんは「待ってました!」と歓迎。阿部さんも地域と関係性を築く機会を模索しており、これまで大学として地域と連携する機会が少なかったことに忸怩たる思いがあったからでした。阿部さんは、「荒町は、これから学生たちがお世話になる街。地域に根ざし、顔の見える関係を築きたい」と話します。小学校の夏休みには、荒町の子どもの宿題を学院大生が応援するという地域への社会貢献活動の構想も抱いています。子どもたちにとって学生との触れ合いが良い体験となれば、将来的に進学の選択肢になるという狙いもあります。学院大の本音も建前も全て明かす姿勢に、商店街の駿河真樹子さんは「この人たちになら、私たちのアイデアを正直に話すことができる」と信頼を寄せます。

映画を撮る話になったのは2018年8月、副理事長の伊藤さんのアイデアからでした。荒町の魅力を100年後の未来に向けて、広く発信したいという商店街側の思いに学院大も共感。打ち合わせを重ね、学生の視点で商店街の店を取材し、店主がそれに答える形で



映画を製作しました。さらに、商店街の常連客である映像会社の人もこの取り組みに共感し、映像の編集作業を引き受けてくれました。商店街の伊藤善子さんは、「学生からの取材に答えることで自分の考えがまとまり、客観的に荒町を考え直すきっかけになった」と振り返ります。学院大の相澤孝明さんは「取材は、教養学部地域構想学科の1年生約20人が授業の一環で行いました。テレビで見ようには上手く取材できず、相手から話を聞き出すことに難航したようです。商店街の皆さんには良い先生になっていただきました」と話します。商店街は、学院大生の学びのフィールドとなり、商店街店主たちは、学院大生から店の歴史や現状の課題、将来像を取材されることで、地元愛を再確認しました。

地域は大学の財産、大学は地域の財産となるように

駿河さんは、「映画を撮って終わりでは意味が無い。荒町が映画と同じように、本当に100年後に向けて動いている姿を見せたい。次の連携は、商店街のお祭りでしょうか」と、学院大に意見を投げかけます。学院大の山川陽介さんは「今回、商店街と学院大の間に深い信頼関係を築くことができました。去年の今頃には無かったことです」と、連携事業で得たものを実感します。商店街と学院大は、これからも100年つづく荒町を目指して、お互いの存在が財産となるように、地域と人を繋ぎ、連携を続けていきます。(取材・文 水原のぞみ)

- 荒町商店街振興組合
〒984-0073 宮城県仙台市若林区荒町215 TEL 022-222-8710
- 東北学院大学(土樋キャンパス/学長室事務課)
〒980-8511 仙台市青葉区土樋一丁目3-1 TEL 022-264-6424 / FAX 022-264-6364

活動に役立つ書籍をご紹介します

お役立ち本

先生、NPOって儲かりますか？

著者:渡辺 豊博 発行所:春風社

非営利組織の「営利活動」というと、そこには矛盾が生じることになると思いがちです。ところがそうではなく、ビジネスプランをつくりあげ、起業することで「NPOビジネス」で儲けようという内容を本書では紹介しています。ボランティアは活動団体、NPOは組織体、NPO法人は事業体と組織の定義を明確に示し、NPOの営利活動が合理性をもつことが丁寧に説明されています。筆者自身の経験談も反映され、説得力満載の一冊です。



活動を始める一歩を応援します

コトハジメ

西多賀子ども食堂OPEN！ ボランティア募集中

2019年5月に西多賀地区で子ども食堂が開店しました。調理や子どもたちの遊び相手を通じてお手伝いをしてくれる人を募集中。

- 活動日時:第4土曜日 16:30~18:30
 - 活動場所:みやぎ生協西多賀店 2F 集会室
 - 活動内容:①調理ボランティア(年齢・性別不問)②学生ボランティア(子どもの遊び相手や、学習支援)
- 問い合わせ・申込み
NPO法人仙台明るい社会づくり運動(仙台明社)
TEL 090-2842-2413 Mail akigutiishi@gmail.com
HP <https://www.sendaimeisya.org/>



市民ライター 鈴木 はるみさんの突撃レポート！

取材団体名 / 子ども虐待防止 ネットワーク・みやぎ
(キャブネット・みやぎ)

一人にならないで、
助けを求めて



▲虐待への対応について仙台市長宛に意見・要望書を提出。子どもの虐待の早期発見と適切な保護につなげる地域ネットワーク形成も積極的に行っています。

キャブネット・みやぎは、子どもの虐待防止を目的に活動する任意団体です。仙台市を拠点とし、2019年で設立20年を迎えます。「自分は我が子を虐待しているのでは」と悩む母親たちからの電話相談を主に、子育ての悩みを吐露し合うことで気持ちを整理する「母親グループ」の実施など悩みを抱える人へ寄り添います。事務局長の鈴木俊博さんは「まわりや近所に相談できる相手もなく、悩みを一人で抱える母親たちがいます。孤立が虐待を引き起こしているんです」と言います。その言葉から、問題解決の糸口が見えず、どうしようもない気持ちを抱え、苛立ち、目の前の我が

子に手を上げてしまう母親の姿が浮かんできます。代表で弁護士の村松敦子さんは、少年や女性の人権擁護活動に取り組む中で、虐待防止の身近な相談窓口の必要性を感じ、1999年キャブネット・みやぎを設立しました。相談には研修を受けた約40人の市民ボランティアが対応。「共感」が何よりの安心感です。「つらい時は人に助けを求めてもいいんです。周囲の力を借りることによって子育てに心の余裕も出てきます。どうか一人で抱えこまないで」。鈴木さんの祈るようなメッセージが、強く印象に残りました。

電話相談:022-265-8866 受付時間 10:00~13:00(日曜・祭日休み)
事務局:022-265-8867 事務局長 鈴木俊博
住所 〒980-0812 仙台市青葉区片平1-5-20 5F 弁護士 村松敦子 気付
Mail zimukyoku@capnetmiyagi.org HP <http://capnetmiyagi.org/>